

ダイヤスプレー

プレッシャー式噴霧器

商品名 エンプラ製17cmノズルパイプ付き
 型式名 No.7015 1L 用

特許出願済

取扱説明書

- ・ご使用前に必ずお読みください。
- ・必要なときに読めるよう、大切に保管してください。

安全上の注意

⚠ 注意

- ご使用後は、よく洗浄し包装ケースに入れ、日光(紫外線)のあたらない暗い場所に置いてください。屋外や窓際、ベランダなどで長期間日光(紫外線)にあてると本器の材質が劣化し、破裂するおそれがあります。(6ページ「**使用後の大切なお手入れ**」ご参照。)
- タンク部に傷をつけたり、落として強い衝撃を与えないでください。傷や衝撃は本器の安全性に重大な影響を及ぼします。
- 安全弁が規定加圧回数より多く加圧しても作動しない場合は、すぐに加圧をやめてください。加圧を続けると破裂するおそれがあります。(4ページ ⑤ ご参照。)
- 火や高熱のそばに置かないでください。また、お湯をタンクに入れないでください。タンクは十分な耐圧強度(使用圧力の約5倍)がありますが、思わぬ事故をまねくおそれがあります。
- 薬品は必ず規定通りに薄めてください。誤使用で高濃度の薬液を使用した場合、ホースが軟化して破裂するなど本器の材質に悪影響を及ぼすおそれがあり、負傷または物的損害を生じる可能性があります。(5ページ「**薬液の薄め方(目安)**」ご参照。)
- 規定の希釈倍数が50倍～原液など特に高濃度で使用する薬液は、有機溶剤が含まれていないことを必ずご確認ください。有機溶剤が含まれている場合は、絶対に使用しないでください。ホースが軟化して破裂するなど本器の材質に悪影響を及ぼすおそれがあり、負傷または物的損害を生じる可能性があります。(5ページ「**薬液の薄め方(目安)**」ご参照。)
- 「噴霧器の使用禁止」と表示されている薬品は絶対に使用しないでください。
- 薬品を噴霧する場合は、手袋やマスク・防護眼鏡をつけるなど、薬品の取扱説明書の指示にしたがってください。

⚠ **注意** は指示に従わなかった場合に負傷または物的損害を生じるおそれのあるものを示しています。

⊘ 使用できない主な薬液

厚生労働省認可の防疫用薬品 (ダイアジノン乳剤・スミチオン乳剤・DDVP乳剤等その他の防疫用薬品)

- ・酸性およびアルカリ性の強い薬品・クレゾール・クレオソート・しろあり防除薬液・引火しやすい液体・シンナーなど溶解力の強い溶剤・塗料・洗剤及びクリーナー・高濃度の農薬・粘性のある液体など。
- *この他にも使用できない薬品がありますので、当社にお問い合わせの上、ご使用ください。

(農水省認可の一般農薬用ダイアジノン乳剤・スミチオン乳剤・DDVP乳剤等は使用できます。)

⊘ 禁止事項

- ・本器を改造したり、本書に説明のない分解や修理を行うことは本器の安全上に重大な影響を及ぼすおそれがあります。決して勝手な改造や修理を行わないでください。

耐用年数について

耐用年数は、ご使用開始から10年(通常の使用で)を目安としてください。本製品は十分な耐久性と安全性がありますが、耐圧容器を使用しているため安全性重視の観点から、耐用年数を決めさせていただきました。また、この文章中の「耐用年数10年」は、本器の品質を保障するものではありませんのでご了承ください。

※本書の内容、及び本器の仕様は、予告なく変更することがあります。

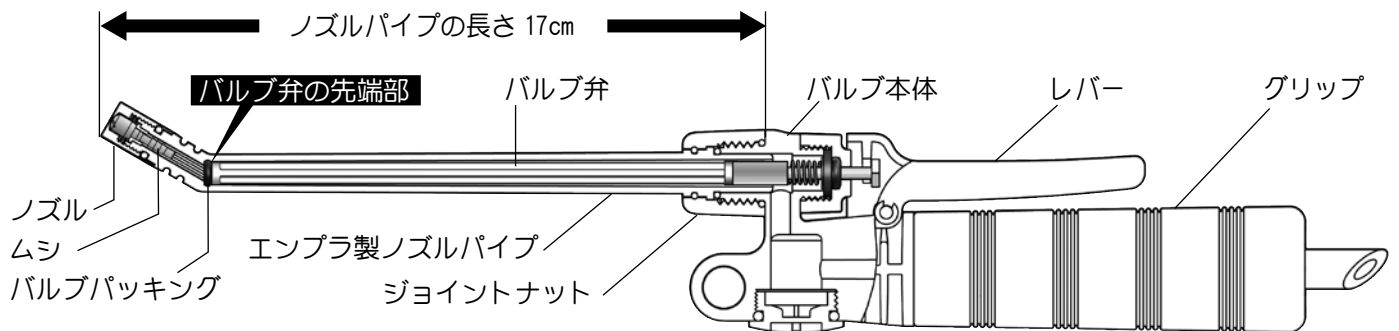
主な用途

- 園芸用、観賞植物等の、殺虫殺菌剤・消毒剤の散布、灌水に。
- 野菜・果実・草花などへのホルモン剤(植物成長調整剤) 散布に。

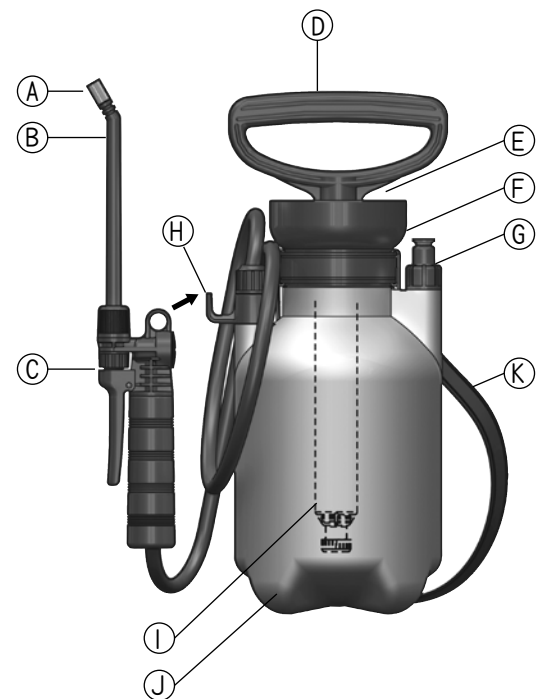
各部の名称と特長

新開発、当社独自バルブ構造。

- ポイント 1** ノズル穴径は、0.4mmなので、細かい霧が噴霧できます。(ムシの溝幅 0.3mm)
- ポイント 2** ノズルパイプの先端までバルブ弁が入っているため、キレの良い霧が噴霧できます。
- ポイント 3** レバーが長くバルブの開閉が軽く出来るので、噴霧作業が楽にできます。



- ① 便利なノズル(噴霧口) ——— ●霧の角度が80度から直射まで変えられます。
- ② エンプラ製ノズルパイプ ——— ●エンブラ製なので錆びずに丈夫。
●先端に30度の角度がついているので葉裏等の噴霧がとても簡単です。
- ③ レバー式バルブ ——— ●長いレバーで、瞬間噴霧が軽くできます。
- ④ 握りやすいハンドル ——— ●両手でしっかりと握れ、耐久性抜群です。
- ⑤ 便利なハンドルロック式 ——— ●ハンドルを回すだけでポンプの脱着が楽にできます。
●ハンドルを持って持ち運びができます。
- ⑥ じょうご型注入口 ——— ●液の注入が楽にできます。
- ⑦ 自動安全弁装置 ——— ●圧力約400kPa(4kgf/cm²)以上の圧力は外部に逃げますので安全です。
- ⑧ フック ——— ●レバー式バルブが掛けられます。
- ホースの収納方法 ——— ●図のようにじょうごとフックの間にホースを巻いてレバー式バルブをフックに取り付けてください。



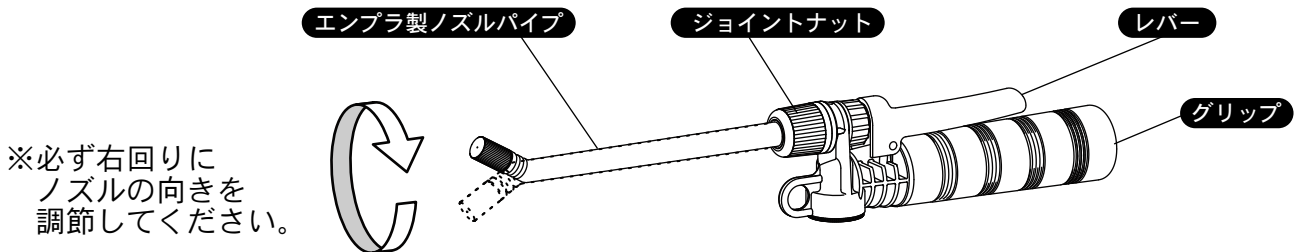
- ① 加圧が軽く、耐久性の優れたポンプ
- ② 丈夫なタンク
- ③ 肩掛けベルト

主要材質 ポリプロピレン・硬質ポリエチレン

ご使用方法

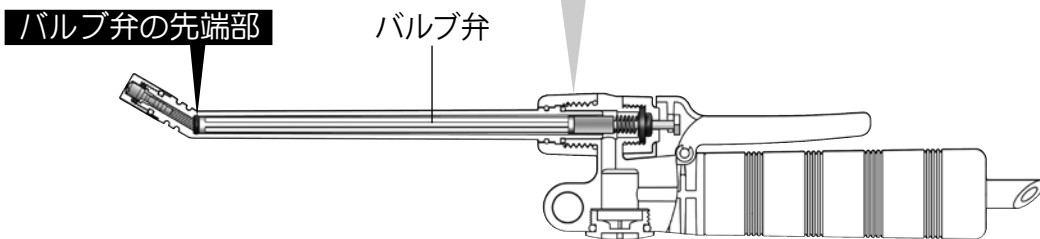
1 ノズルの向きをお好みの方向に調節します。

- ノズルパイプは、右回転でノズルの向きを調節してください。構造上、左に回転するとジョイントナットやバルブ弁のジョイント部分がゆるみます。



⚠ 新開発バルブ構造のご注意。

・タンク内に圧力が残っている状態で、ジョイントナットを緩めないでください。結合部から液が噴出します。エンプラ製ノズルパイプは、必要な時以外、外さないでください。

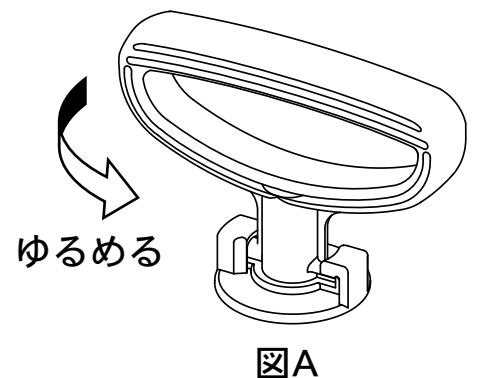
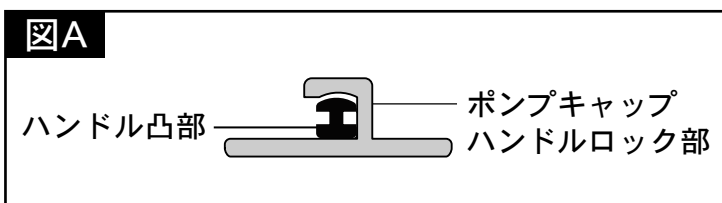


※ノズルパイプの先端部（バルブ弁の先端部）までタンク内の圧力がかかり、液が通っています。ノズルパイプを外すときは、洗浄後（6ページ「**使用後の大切なお手入れ**」ご参照。）タンク・ホース・ノズルパイプ内の液と圧力がない状態で外してください。

- ⚠ 注意 ・エンプラ製ノズルパイプは、十分な強度がありますが、物にぶついたり強い衝撃を与えると破損するおそれがあります。

2 ポンプをタンクから取り外す。

- ・ハンドルを左に回しポンプキャップを緩めてください。
- ・ハンドルが空回りして、ポンプキャップハンドルロック部を傷める可能性があります。図Aのようにハンドル凸部の位置を確認してからハンドルを左に回してください。

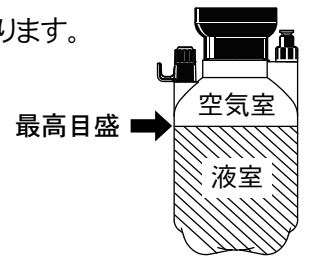


3 薬液をタンクに入れる。

- ・ 空気室の大きいタンクは、1ℓまたは、1.5ℓまで薬液を入れることができます。
- ※薬液を1ℓ入れたとき、高圧の噴霧が長く続くように空気室を大きく設計しました。薬液を1.5ℓ入れたときは、噴霧時間が短くなります。(4ページ ⑤ (加圧回数) ご参照。)
- ・ 薬液は、別途容器で計量してください。(5ページ 薬液の薄め方(目安) ご参照。)
- ・ 薬液を最大量(1.5ℓ)入れると、薬液はタンクに表示された「1500」の最高目盛りになります。
- ・ 最高目盛り以上入れると、加圧したときに安全弁装置より液が噴出する事があります。

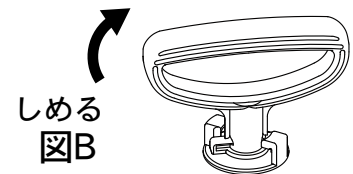
●タンクの着色について

- ・ 安全性重視のため、タンクを黄色に着色して、肉厚も厚くしてあります。耐光性・耐圧性・耐久性に優れたタンクです。薬液は見えませんのでご了承ください。



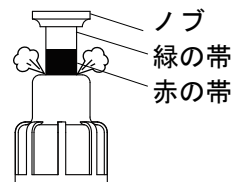
4 ポンプをタンクに取り付ける。

- ・ 図Bのように、ハンドルを右に回し、空気が漏れない程度に締め付けてください。



5 ポンプを加圧する。

- ・ 加圧するときは、ハンドルを両手で握り、ハンドルとロック部があたらない位置(④ 図B の位置)で加圧してください。
- ・ 加圧すると安全弁装置の緑色のゲージがでできます。
- ・ 圧力が約400kPa (4kgf/cm²)になると赤色になります。
- ・ さらに加圧すると弁が開き、空気が抜けますので、加圧を止めてください。



⚠ 注意

- 規定の加圧回数(下記表ご参照)より多く加圧しても安全弁が作動しない時は、すぐに加圧を止めてください。
- *安全弁の作動が悪いときの対処法は、「故障かな?と思ったときは」(7ページ)をご参照ください。
- 肩掛けベルトをかけたまま加圧しないでください。ベルトが切れてケガをするおそれがあります。加圧するときは、作業台の上、または、地面などの本器がしっかりと安定する平らな場所でハンドルに左右均等の力が加わるように垂直に加圧してください。

加圧回数 (ご参考)

液量1000mLの時

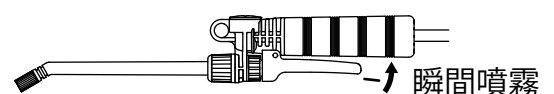
加圧回数 (安全弁開放まで)	噴霧時間	噴霧量 (残圧約230kPa)	2次加圧回数 (安全弁開放まで)	噴霧時間	噴霧量 (残圧約250kPa)
約60回	約5分00秒	約500mL	約50回	約5分40秒	約500mL (全量噴霧)

※液量1500mLの時、初回、安全弁開放まで約30回加圧します、以降、圧力が下がったら再度加圧してください。

6 噴霧を行う。

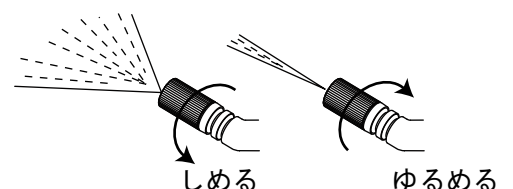
〈瞬間噴霧の仕方〉

- ・ レバーを握ると噴霧し、手をゆるめると止まります。



〈霧の角度の調節方法〉

- ・ ノズルをしめると、霧は細かく広範囲に噴霧します。
- ・ ノズルをゆるめると、霧は粗く狭くなり、さらにゆるめると直射になります。風の強いときに便利です。



薬液の薄め方(目安)

*薬液に添付されている取扱説明書を必ずお読みください。

- ・一般的にはスミチオン、マラソン等の乳剤は、2000~1000倍に薄めて使用します。
- ・高濃度で使用する場合でも、通常は500倍程度に薄めます。誤って希釈倍数200~100倍の高濃度で使用するケースがありますが、植物を痛めるばかりでなく本器の機能も損ない、また人体にも有害ですので正しい希釈倍数でご使用ください。なお規定の希釈倍数が50倍~原液など特に高濃度で使用する薬液は、有機溶剤が含まれていないことを必ずご確認ください。有機溶剤を含む場合は、絶対に使用しないでください。有機溶剤を含まない“液剤タイプ”の除草剤等は薬液の説明書通り250~20倍の高濃度でも使用できます。又、石灰硫黄合剤も希釈倍数7倍程度で使用できますが使用後のお手入れは十分に行ってください。
- ・水和剤を希釈するときは必ず別の容器で、薬剤と水を十分にかき混ぜてから本器のタンクに移し替えてください。直接本器タンク内で希釈しますと、薬剤が水によく溶けずに、ノズルの穴詰まりや散布後に本器内に残り固化するなど、故障の原因になります。

希釈倍数	2000倍	1000倍	500倍
水1ℓに対しての薬品量	0.5mL(cc)	1mL(cc)	2mL(cc)

〈ご参考〉 薬液量 mL(cc)=薄める水の量 mL(cc) ÷ 希釈倍数

⚠ 注意 <下記の場合、ホースが軟化して破裂するおそれがあるので使用を禁止します。>

- ①規定の希釈倍数が50倍~原液など特に高濃度で使用する薬液で、有機溶剤を含む場合。
- ②薬品に「噴霧器の使用禁止」と表示されている場合。

上記の場合、ホースが軟化して破裂し、目に薬液が入るなど事故の原因になりますので、絶対に使用しないでください。また、上記以外でもホースが軟化して膨らむなどの現象がでた場合はその薬品の使用を禁止して、軟化したホースは、直ちに新品と交換してください。(8ページ 部品セット 90300)

<液剤の薄め方>

- ・液剤を希釈するときは必ず別の容器で、規定量の水に正確な量の液剤を加えてから均一にかき混ぜ本器のタンクに移し替えてください。

規定量の水

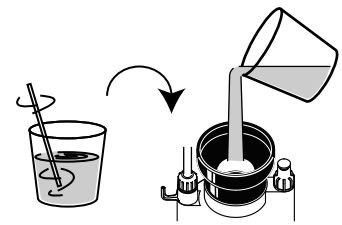


①規定量の水を計量します。

正確な量の液剤



②計量した水に正確な量の液剤を加えます。



③液剤が均一になるようによくかき混ぜた薬液をタンクに移し替えます。

<水和剤・水溶剤の薄め方>

- ・水和剤を希釈するときは必ず別の容器で、薬剤と水を十分にかき混ぜてから本器のタンクに移し替えてください。直接本器タンク内で希釈しますと、薬剤が水によく溶けずに、ノズルの穴詰まりや散布後に本器内に残り固化するなど、故障の原因になります。

少量の水



①計量した薬剤に少量の水と少量の展着剤を加え、よく練って混ぜ合わせます。

少量の展着剤

規定量の水



②除々に水を加えながらよくかき混ぜて規定量にします。



③出来上がった薬液をタンクに移し替えます。

※薬液中の残留物は、タンクに移し替えないように注意してください。

7 噴霧を終える。

⚠ 注意

- 圧力が残っている状態でポンプなどはずすと、顔などに薬液がかかるおそれがあります。まず安全弁装置のノブを引っ張り、圧力を逃がしてください。

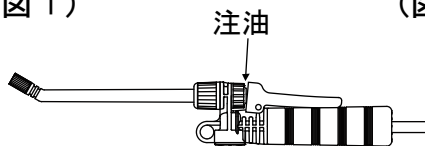
使用中・使用後のお手入れ

●本器の性能を長く保つために、次の事項をお守りください。

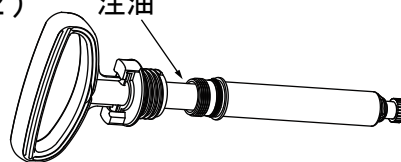
- ・薬液は残さず1回で使い切ってください。長期間タンク内に保存したままでは薬液が変質するだけでなく、本器の性能に影響を及ぼすおそれがあります。
- ・使用中に次のような問題が出たときの対処は、下記のように行ってください。

①レバーの作動が重くなったとき	シャフト部に注油する。	図1ご参照
②ポンプの作動が悪いとき	シリンダー内壁に少量注油する。	図2ご参照
③その他の問題が出たとき	「故障かな?と思った時は」ご参照。	7ページに記載

(図 1)



(図 2)



〈ポンプの分解の仕方〉

- ・タンクからポンプ部を取り外す。
- ・ハンドルをロックしたままシリンダーをしっかりと握って左に回す。
- ・取り付けるときはしっかりと締め付ける。

- ・使用しているうちに、ネジ部がゆるむことがあります。ときどきご使用前に各部のネジをしっかりと締めつけてください。

使用後の大切なお手入れ

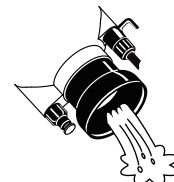
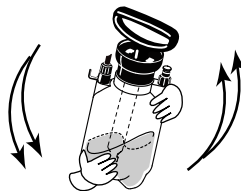
※本器を洗浄しないで保管すると、薬液の影響でホースおよびタンクなどが劣化します。

①タンクに真水(水道水)を入れ、タンク全体をよくふって内部を洗浄してください。

- ・タンクの約1/4位に真水(水道水)を入れてください。



- ・タンク全体をよく振ってください。



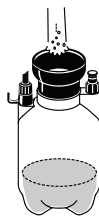
- ・洗浄水を捨ててください。

×3回

左記の手順を3回ほど、繰り返してください。

②本器の通液路を洗浄するために再度タンクに真水(水道水)を入れて加圧し、約1分間噴霧してください。

- ・タンクの約1/4位に真水(水道水)を入れてください。



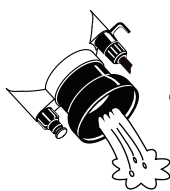
- ・タンクを加圧してください。



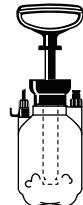
- ・約1分間噴霧してください。

③本器を洗浄後は、タンク内と通液路を完全に空にして保管してください。

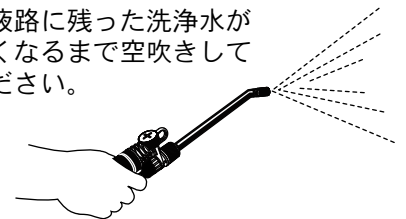
- ・②で残った洗浄水を捨ててください。



- ・タンクが空の状態、再度加圧してください。



- ・通液路に残った洗浄水がなくなるまで空吹きしてください。



※特に、水和剤・石灰硫黄合剤・マシン油剤を使用した場合は、薬液が完全になくなるまで真水(水道水)を噴霧して本器内を洗浄してください。薬液がバルブ本体、ノズル内部に残ると固化して故障の原因になります。

⚠ 注意

ご使用後は、よく洗浄し圧力を抜いた状態で、包装ケースに入れ、日光(紫外線)のあたらない暗い場所に置いてください。タンクは十分な耐圧強度(使用圧力の約5倍)がありますが、長期間日光(紫外線)にあてておくとタンクが劣化し、破裂してケガをするおそれがありますので必ずお守りください。同じく、薬液を長期間タンク内に入れていたり、薬液を洗い残した場合もタンクが劣化します。

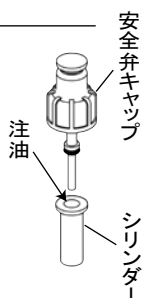
- ・冬期は凍らない所に置いて保管してください。
- ・パッキング類または、ホース等は使用年数、使用状況により軟化したり硬化したり、摩耗することがあります。ときどきチェックして、そのような場合はパッキング類(関連部品を含む)と交換してください。

*「分解図と部品セット番号」(8ページ)をご参照ください。

故障かな？と思ったときは

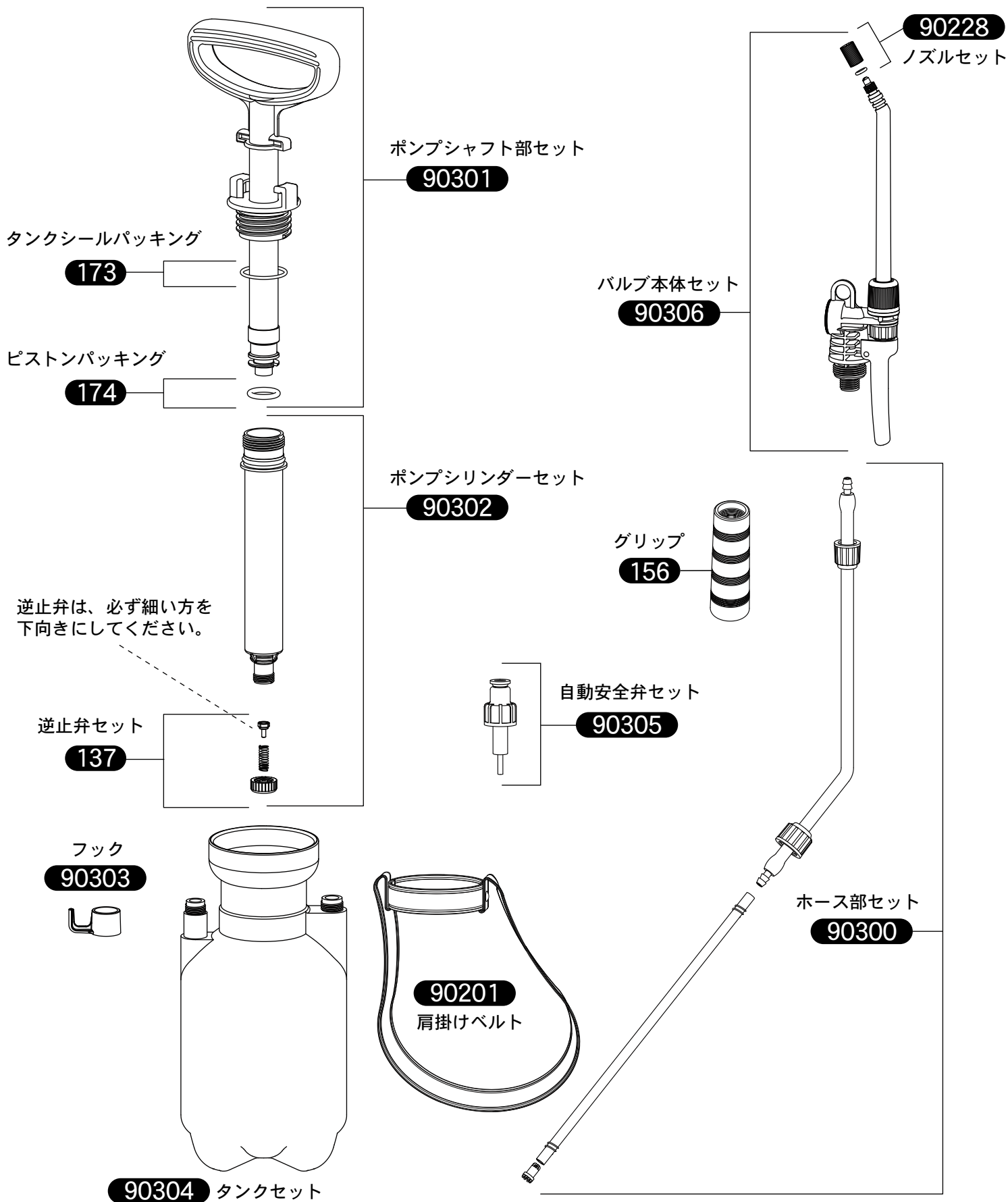
- 本器の分解修理には、本書に書いてある安全上の注意、及び本器の構造が理解できる方が行うようにしてください。
- 修理の際には、「分解図と部品セット番号」(8ページ)をご参考にしてください。
- 分解修理の後は、各ネジ部がゆるんでいないか、及び安全弁装置が作動しているかどうかなど安全性をよく確認してご使用ください。
- 油は機械油やシリコンオイルを用いてください。(グリスや有機溶剤の入った油は避けてください)

現象	原因	処置及び修理方法
霧が出ない。 霧が弱い。	圧力が不十分 空気もれ ゴミ詰まり	安全弁装置のノブを引き圧力を確認して再度加圧する。 各部をよく締めて空気もれを確かめる。 ホース及び噴霧口の掃除。
霧が曲がったり、片寄ったりする。	ノズルまたは、ムシを掃除してください。	噴霧口 水道水 ①噴霧口は、ノズルの内側から水道水で洗い流しながら、「つまようじ」のような柔らかい物で傷つけないように掃除してください。 ※①の掃除で、霧が直らない場合は②の掃除をしてください。
[正常ではない霧の例]		
<p>Ⓐ 変形した円錐。</p>  <p>Ⓑ 円錐状の霧に筋が見える。</p>  <p>Ⓒ 円錐の向きが片寄る。</p> 	<p>②ムシ部の2本の溝を掃除するときは、水道水で洗い流しながら、歯ブラシを溝に沿うように動かして掃除してください。</p> 	
<p>⚠ 注意 噴霧口は直径 0.4mm、ムシ部の溝は幅 0.3mmと細かい設計なので、傷をつけない様にしてください。</p>		
<p>上記のようにノズル部を掃除しても霧が正常に噴霧されないときは、部品セット 90228 または、90306 と交換してください。</p>		
ポンプを加圧しても圧力が上がらない。	<p>タンクとホースの接続ナットがゆるんでいる</p> <p>逆止弁部内のゴミ付着または部品の紛失</p> <p>ピストンパッキングの劣化または破損</p> <p>タンクシールパッキングの劣化または紛失</p> <p>ポンプキャップとポンプシリンダーがゆるんでいる</p> <p>安全弁キャップがゆるんでいる</p>	<p>ホース止めナットをタンクによく締め付ける。</p> <p>ゴミを取り除く。部品セット 137 と交換。</p> <p>部品セット 174 と交換。</p> <p>部品セット 173 と交換。</p> <p>ハンドルとシリンダーを持ってよく締め付ける。</p> <p>安全弁キャップをよく締める。</p>
グリップ後部からの水もれ。	バルブ本体とホースの接続ナットがゆるんでいる	グリップを左に回し取り外し、ホース止めナットを締め付ける。
バルブのシャフトから水がもれる。	パッキング類の老化又は破損	部品セット 90306 と交換。
霧が止まらない。		バルブ本体シャフト部に油をさす。(6ページ、①ご参照)
レバーの動きが重い。	油切れ	
安全弁の動きが悪い。	<p>ゴミ・ほこりの付着</p> <p>パッキング類の劣化または破損</p>	<p>安全弁キャップをはずし内部の汚れを取り除き、シリンダー内壁に油をさす。</p> <p>部品セット 90305 と交換。</p>
ポンプの動きが悪い。	<p>油切れ (固化し付着)</p> <p>薬液によるピストンパッキングの膨潤</p>	<p>シリンダー内壁に少量油を塗る。(6ページ、②ご参照)</p> <p>部品セット 174 と交換。</p>



分解図と部品セット番号

●白抜き文字は部品セット番号です。
部品の発注は部品セット番号でご注文ください。



フルプラ

〒348-0038 埼玉県羽生市小松台2-705-16

TEL 048-562-2680

<https://www.furupla.co.jp/>